

「神の愛から私達を引き離すものはない」ローマ8：31-39 堀田修一20・5・31

本日の箇所は、神の恵みが、最も驚くばかりに圧縮されている素晴らしい箇所です。

I 「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう」：31

私達には、罪と悪魔と死という敵があります。しかし、感謝な事に、私たちの味方である三位一体の神は、これらの敵より何倍も強い方です。

①神は罪の力より強い方であり、私達が神に拠り頼むなら、罪への勝利を与えて下さるのです。本日は、ペンテコステ（聖霊降臨）礼拝ですが、主を信じる私達の心の中に内住して下さる聖霊なる神が、この世と私達の心の中に残っている罪の力に打ち勝つ力を与えて下さいます。

②神は悪魔より強い方です。悪魔は、力がありますが、悪魔は、神に罪を犯す前には、神が造られた天使でした。つまり、悪魔は、神に造られた天使、被造物で、神は、全能の造り主なのです。主イエスは、十字架の死と復活により、「死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした」（ヘブル2：14, 15）。※悪魔は、主イエスの十字架の死と復活により、敗北しましたが、現在、最後のあがきとして、私達を強く誘惑して来ます。目を覚まして祈りましょう（Iペテロ5：8）。

③私達に敵対する死（肉体の死と永遠の滅びという死）に、主イエスは、復活により勝利されました。それで、主イエスを信じる者には、死への勝利を与え、地上で死を経験しても、魂は、天国におられる主イエスに迎えられ、永遠に愛されるのです。世の終わり、再臨の時には、墓の中からよみがえらせ、永遠に生きる栄光の体（罪のない心と最高の体）を与えられます。感謝します。

II 「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか」：32。神は、私達に、ご自分の御子をさえ惜しむことなく私達を救う十字架の死に渡された。これは対比のみことばです。神は最高の御子を私達に与えて下さったのだから、その他のもの、私達の生活に必要なものを恵んで下さらない事があるまいかという意味です。「まず神の国と神の義を求めなさい（神との良い関係を第一としなさい）。そうすれば、これらのものはすべて（生活の必要）、それ（神との良い関係）に加えて与えられます」（マタイ6：33）。「神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます」（ピリピ4：19）。

III 「だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです」：33。

1. 「神に選ばれた者たち」=私達が、先に神を信じようと神を選んだのではなく、神が先に私達を愛して、救いに選んで下さった恵みを感謝したい。神の先行する選びがなければ、私達は決して神を信じる事は出来なかった→「神は、世界の基が据えられる前から、この方（主イエス）にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされた」（エペソ1：4）。「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました」（ヨハネ15：16）。※私達が、試練や誘惑の中で主を信じる信仰の手を離そうとしても、先に私達を選ばれた神が、力強い御手で私達をつかみ、見離されないのです。何という恵み、感謝なことでしょう。

2. 「神に選ばれた者（私達）たちを訴える」者は、誰でしょう。それは悪魔であり、私達の心に残っている罪の心です。「私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者」（黙示録12：10）。これは悪魔のことです。私達の心も私達を責める事が次の御言葉で分かります→「たとい自分の心が責めたとしても、安らかでいられます。神は私たちの心よりも大きな方であり、すべてをご存じだからです」（Iヨハネ3：20）。悪魔は、私達を訴え、責めます。「おまえの罪は赦されない。おまえは失格者のクリスチャンだ。神は、もう、おまえのことは、愛されていない。赦されはしない」と。その時、自分の言葉で悪魔と戦っては、勝てません。力ある神のみことばで対戦して下さい。確かに、私は、罪と弱さのある者だ。しかし、神の力強い御言葉がある。「今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません」（ローマ8：1）。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめて下さいます」（Iヨハネ1：9）。

自分の言葉ではなく、神の力あるみことばで、悪魔と戦うなら、神より弱い悪魔は、逃げ去ります→「神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります」(ヤコブ4:7)。そして、33節の最後に「神が(主の十字架の完全な贖い、償いの故に、私達の過去、現在、未来のすべての罪を赦し、主を信じる罪人の私達に、律法を完全に守られた主が義の衣を着せて下さるので私達は神の前に正しい者と見なされ) 義と認めてくださるのです」と力強く語られている。

Ⅳ「だれが、私達を罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私達のために、とりなして下さるのです」：34。誰が私達を罪に定めようとするのでしょうか。

1. 「死んで下さった方」主イエスは、私達の過去、現在、未来のすべての罪を背負い、十字架で私達の罪のために、神の正しい刑罰をすべて受けて下さり、私達の身代わりに死んで下さいました。

2. 「いや、よみがえられた方であるキリスト・イエス」。主イエスは、十字架で私達の罪の為に死なれ、三日目によみがえられた。主の復活は、私達の数えきれない罪の為に主の十字架の贖い、償いの宥めの供え物が、神に完全に受け入れられた証拠、保証だったのです。

3. 「神の右の座に着き」=神の右に着座は、①神であり、人となられた主イエスの私たち罪人の救いの御業が完全に完了した、終了した恵みを示します。②神の右の座への着座は、最高にへりくだり、神であるのに人となられ、苦しみを受け、十字架につけられ、復活し、元からおられた天に昇られ、神の右の座に着かれた事は、主イエスは、最高の栄誉と権威を与えられたことを意味します。イエスは言われた「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています」(マタイ28:18)。「しかも私達のために、とりなしをして下さるのです」：34=神と人の間を真にとりなすのは、神であり人である方のみ。それにふさわしいのはただ一人、神であり人であるキリストのみ。「とりなす」とは、罪を犯した人間の為に、神に取り持つという意味。主イエスは、私たちの数えきれない罪を負われ、成し遂げられた私たち罪人の為の贖罪、償いを根拠として、私たちの祈り、罪の告白祈りを神に取り次がれ(祈りの最後に「イエス様の御名によって、御名を通して祈ります」の意義)、神は、私たちの祈りを聞いて赦して下さい、多くの恵みを与えられるのです。ここで、決して誤解してはならない教理があります。父なる神は、厳しい裁判官で、子なる神、キリストは優しい弁護者という考え方は、これは、大変な間違いです。父と子と聖霊は、全く同じ御性質をお持ちの神であり、三神教ではなく、一体の方、一人の神です。私達が罪の告白の祈りをする時、父なる神は、厳しく、主イエスが頼み込んで、やっと赦して下さいのではない。父も子も同じ大きな愛と聖なる義のお方で、私達を愛し赦しきよめて下さる。私達の救いの為に主の十字架(神の愛と義の両方が全うされた)は、父なる神が与えられた救いである。

Ⅴ「だれが、私達をキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか。苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。こう書かれています。『あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。』しかし、これらすべてにおいても、私達を愛して下さった方によって、私達は圧倒的な勝利者(どんな苦難の中でも圧倒的な勝利者の神が私達と共におられ、私達を愛し守って下さる)です」：35-37

Ⅵ「私はこう確信しています。死(主を信じている人も地上で死を迎える)も、いのちも、御使い(墮落した天使の悪魔とその全軍勢)も、支配者たち(神が与えられた人権を奪う国々の支配者達)も、今あるもの(世にある苦難、疫病、重い病)も、後に来るもの(後に来る苦難、病)も、力あるもの(私達より力あるもの。私達は弱くとも主が一番強い)も、高いところにあるもの(霊的な悪い力)も、深いところにあるもの(地獄、永遠の滅び)も、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私達を引き離すことはできません」：38-39。死も、苦難も、疫病、重い障害、世の力、天的な悪の力、地獄、永遠の滅びの力も、主にある神の愛から私達を引き離す事は出来ません。なぜなら、この地上で、これから、苦難、疫病、迫害、悪魔の力、地獄の永遠の滅びが迫って来ても、三位一体の神は、既に私達に真の救いと完全な罪の赦しと永遠の命と永遠の愛を与えておられるので、何ものも、私達を、神の永遠の愛から引き離す事はないのです！ハレルヤ！